

MAGAZINE HOUSE MOOK

BRUTUS

1995 AUTUMN WINTER

1200YEN

CASA



Vivere in Campagna

田園に暮す。

Mobile, Mobile!

誘惑のイタリア家具大図鑑。



庭から眺めたミレージ邸。
敷地は思ったより広く、右の茂みの
向こうに馬小屋、犬小屋がある。
このほか、小さな馬場、温室など
が敷地内にある。



根を置き換えたのと、開口部のサッシ類を取
り換えたくらいで、外観はほとんど全く手を
付けていない。一方、インテリアは建築家ら
しく徹底的な改装を施した。さっさと、入居12
年目になるが、この間、子供の成長に合わせ、
また使ってみて初めて分かる不便を直すため、
何度か小さな改装を行なっているという。
ところで、エドアルドは以前から乗馬が趣
味で、いつかは田園で生活を考えていたが、
かといって都市が嫌いわけではない。都市

には都市にしかない魅力や長所があることも
事実だ。ただ、朝晩を覚まして窓の外を眺め
ると、日々風景が少しずつ変化している。い
わば四季の移り変わりを常に感じることがで
きるの、田園に暮らして初めて味わえる醍醐
味だと彼はいう。
ちなみに、現在家族5人のこの田園の家に
同居しているのは、馬4頭のほか、犬5匹、
ダイニングを常宿とするオウム1羽、庭や屋
根を駆け回るリス？匹だ。



ダイニングからキッチン眺める。
食生活は、住環境によって大きな
影響を受けることが容易に
想像できる。ちなみに、夫人は
最近ワインに凝っていて、
ソムリエの資格試験に
合格したばかりという。

3階の多目的リビングルーム。
大きな窓が、この部屋を室内で最も魅力的な
空間にしている。ここは家族が集まる
団楽の空間であったり、エドアルドの仕事場
になったりと、様々な用途に使用される。



Edoardo Milesi
ARCHITETTO, ALBINO, ITALIA

馬4頭、犬5匹、 オウム1羽、野リス？匹、 ともに暮らす生活。

日本で馬が飼える家というのは、いったい
どんな人が住んでいて、どんなところにある
のだろう。おそらく、庶民の感覚で素直にと
らえきれぬような人でもシチュエーションで
もないような気がする。
ベルガモ市内で建築設計事務所を主宰する
エドアルド・ミレージは、市内から車で10分
ほどのアルビーノという小さな町に購入した
家に、きわめて普通で普通の感覚で馬を4頭飼っ

ている。イタリアの生活インフラの豊かさには、
今の日本は逆立ちしても追いつけないのだ。
それはさておき、エドアルドは以前ベルガ
モ市内で住宅兼事務所のマンションに住んで
おり、この家に入居することになったきつ
けは、結婚して子供ができたこと、そして経
済アナリストだった夫人が市内であくせく働
くより、子供と家の世話を専念することを選
んだことだった。
建物自体は、入居前2〜3年空き
家だったが、傷みはひどくなく、歴

1階のキッチン風景。炉は調理に
利用したり、暖を取るためだけに
はなく、空間を和やかにする
機能を果たしている。
都市生活では今では地味な
習慣でもある。

